Press Release

2025 年 9 月 10 日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086
神戸市中央区磯上通 5－1－28
www.lilly.com/jp

EL25-38

早期認知症当事者における意識調査結果を発表

MCI または軽度認知症当事者の 92%が支援により自立した生活を維持
～一般生活者の「もの忘れ」に対する受診意向の低さも明らかに～

日本イーライリリー株式会社（本社：兵庫県神戸市、代表取締役社長：シモーネ・トムセン、以下、日本イーライリリー）は、軽度認知障害（MCI、以下「MCI」）または認知症当事者の考えや生活実態を明らかにし、一般生活者とのギャップを明らかにすべくMCIまたは認知症（認知症の中でもアルツハイマー型／アルツハイマー病による認知症と診断された方）の当事者とそのご家族*（190名）、一般生活者（1053名）に意識調査を実施しました。その結果、早期の段階であるMCIまたは軽度認知症当事者の92%が支援により自立した生活を維持していることが分かりました。また、早期に診断を受けた当事者と比べ、一般生活者の「もの忘れ」に対する受診意向は低いことから、一般生活者への早期対応の啓発が重要であることが示唆されました。

本調査で、当事者の自立の度合いをMCIまたは軽度認知症の当事者・家族（94名）に確認したところ、「自分のことは自分でできる」または「誰かが支援すれば自立できる」と92%が回答しました。支援により自立した生活をおおむね維持できていることが明らかとなりました。また、MCIまたは軽度認知症の当事者・家族の76%が、早い段階で診断されたことを「良かった」と回答しました。認知症の症状は進行していくことから、早期に気づき診断がされることで、当事者がその後も自分らしい生活を長く維持できるように環境を整え、必要に応じた対応をするための時間を確保できることが考えられます。

さらに、受診意向について確認したところ、「健康全般に関して」と「もの忘れに対して」の両方に対して、MCIおよび軽度認知症の当事者・家族は「少しでもおかしいなと感じたらすぐに」または「いつもと違う状態である程度の期間が続いたら」医療機関を受診すると約8割（それぞれ75%、77%）が回答しました。一方で、一般生活者では「健康全般に関して」は67%と高い受診意向をもっているにも関わらず、「もの忘れ」に対しては48%と受診意向が低くなることが明らかになりました。このことから、受診意向の低い一般生活者が当事者となった場合、MCIや認知症の診断が遅れる可能性が示唆されました。

本調査を監修した、神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域 教授で同認知症予防推進センター長 古和　久朋 先生は次のようにコメントしています。「MCIや認知症の診断および治療環境は近年進歩していますが、当事者の方が異変を感じてから医療機関へ受診するまで年単位で時間を要すことも珍しくありません。加齢による『もの忘れ』かMCIまたは認知症による『もの忘れ』か判断することは難しいと思いますので、異変を感じたら専門の医療機関に気軽に相談されることを強くお勧めいたします」

厚生労働省によると、2022 年の国内における認知症高齢者数（65 歳以上）は約 440 万人、2040 年には約 600 万人に達すると予測されています [1]。このような状況を鑑み、2024 年 1 月には、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行され、認知症になっても希望を持って自分らく暮らし続けることができるという「新しい認知症観」への理解促進 [2] が進められています。特に、認知症は個人により症状に幅があることから社会が持つ偏ったイメージやスティグマ（偏見）を変えていくことは喫緊の課題と言えます。日本イーライリリーは今後も認知症の正しい理解の促進および当事者に寄り添った早期対応が広まるよう貢献してまいります。

以上

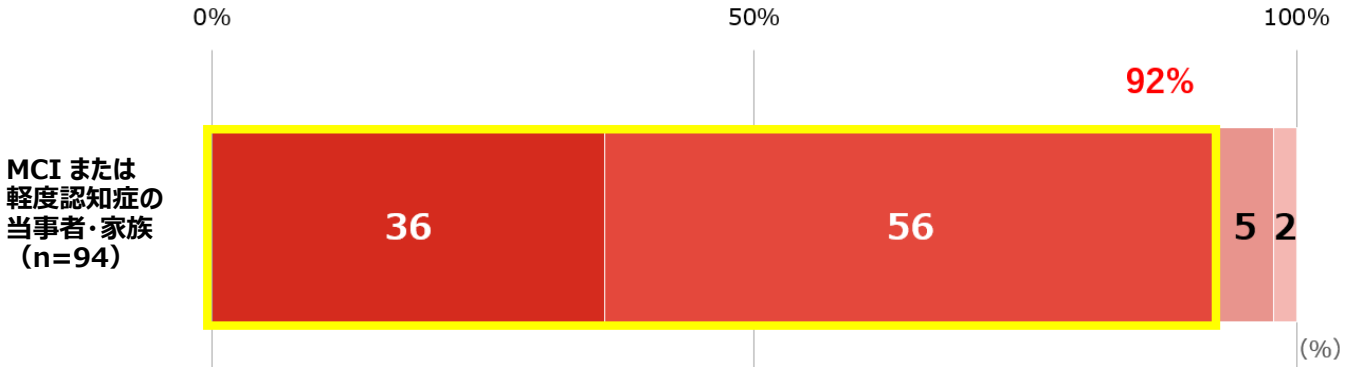
*家族自身ではなく当事者に関する質問に回答している

主な調査結果
（詳細な結果についてはこちらをご参照ください：https://mediaroom.lilly.com/jp/previewPDF/2025/25-38.ref.pdf）

【MCI/軽度認知症の当事者の実態】

- **MCIまたは軽度認知症の当事者の92%が支援により自立した生活を維持**

Q.【当事者とご家族に対して】「記憶力（もの忘れ）や思考力（理解・判断力）の変化（低下）」の具体的な程度についてお伺いします。どの程度自立した生活を送れているかについて、以下の中から最もあてはまるものをお選びください。

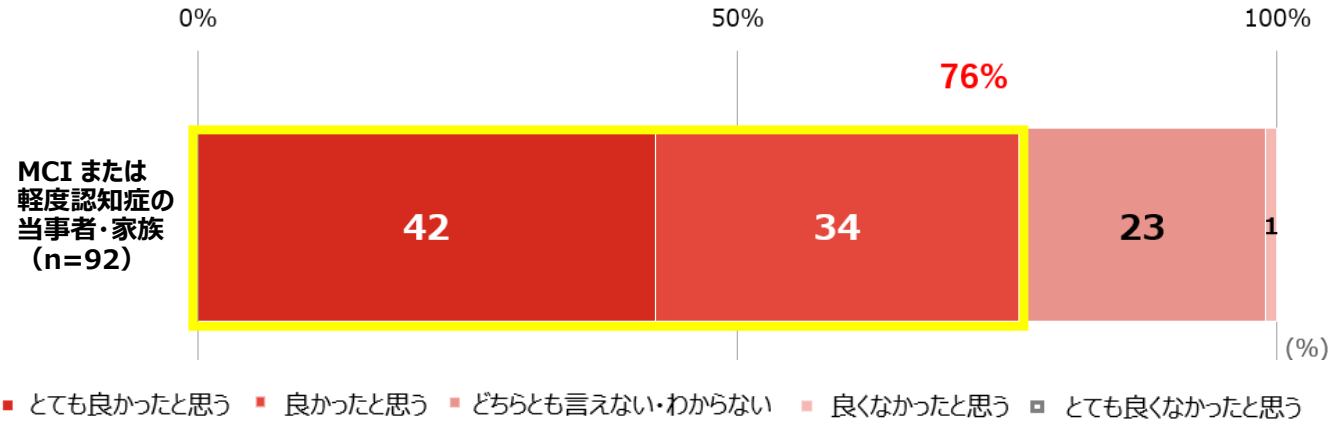


- 記憶力や思考力の低下は感じるものの、自分のことは自分でできる状態／日常生活で誰かの助けを借りる必要はない
- 日常生活上の問題が多少みられるが、誰かが支援すれば自立できる状態／道に迷ったり、買い物の問題（同じものを買ってしまう、買い忘れてしまう）などが時折ある
- 日常生活上の問題が多くなり、自立した生活が困難な状態／着替えや食事、トイレなども困難になり、徘徊や奇声を発するなどの症状も見られる
- 自立した生活ができず、常に介護が必要な状態／着替えや食事、トイレなども困難になり、徘徊や奇声を発するなどの症状が頻繁に見られる
- 精神症状が著しく、専門的な医療を必要とする状態／妄想やせん妄が激しくなり、興奮して暴力をふるうなど

【早期診断について】

- **MCI または軽度認知症の当事者の 76%が早期診断を「良かった」と回答**

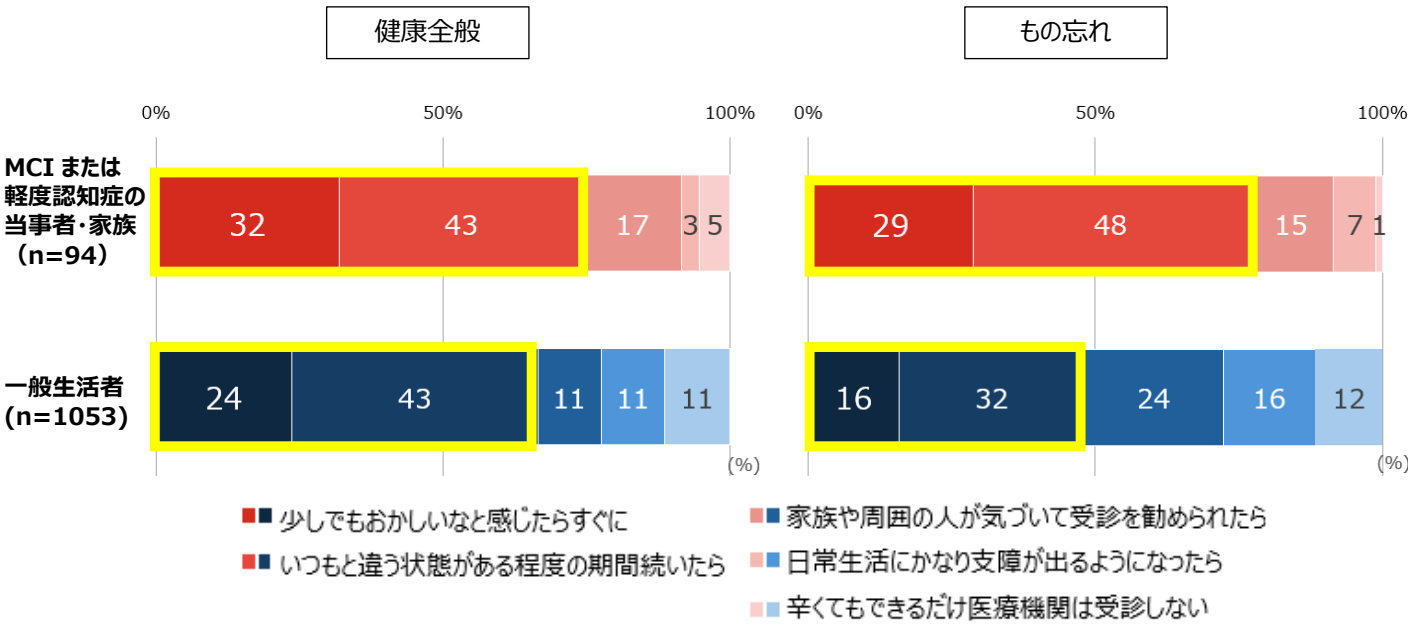
Q. 【当事者とご家族に対して】最初に診断された時に軽度認知障害（MCI）または軽度・早期の認知症だったとご回答頂いた方（92 名）に伺います。早い段階で診断されたことについて、どの程度よかったと思いますか。最もあてはまるものをお選びください。



【「もの忘れ」に対する受診意向】

・ **一般生活者は MCI または軽度認知症の当事者よりも「もの忘れ」への受診意向が低い**

Q.【共通】健康について不安を感じた時に、医療機関を受診するタイミングについてお知らせください。健康全般と、もの忘れに関してそれぞれ以下の中から最もあてはまるものをお選びください。



調査概要

・ 調 査 主 体 ：日本イーライリリー株式会社
・ 実　　査 ：株式会社メディリード
・ 調 査 手 法 ：インターネット調査
・ 調 査 地 域 ：日本全国
・ 実 施 期 間 ：2025年6月13日～6月24日
・ 調 査 対 象 ：【MCIまたは認知症の当事者・家族】
　・ 55歳以上79歳未満、MCIまたは認知症（アルツハイマー型／アルツハイマー病による認知症）と診断されている当事者もしくは家族
【一般生活者】
　・ 20歳以上79歳未満
※近所・知人などで軽度の認知症の当事者をたまに見かけたり関わったりすることがある人を1割、近所・知人などで中等症以上の認知症の当事者を見かけたり関わったりすることがある人を1割、認知症の当事者との関わりは全くない人を人口構成比にもとづき調整の上8割組み込んでいる
・ 有効回答数 ： MCIまたは認知症当事者・家族190名（うち、MCIまたは軽度認知症は94名）
一般生活者1082名
・ 監　　修 ：神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域 教授
同認知症予防推進センター長　古和　久朋 先生

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。日本の患者さんが健康で豊かな生活を送れるよう、日本で50年にわたり最先端の科学に思いやりを融合させ、世界水準の革新的

な医薬品を開発し提供してきました。現在、がん、糖尿病、アルツハイマー病などの中枢神経系疾患や自己免疫疾患など、幅広い領域で日本の医療に貢献しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。
https://www.lilly.com/jp

【本件に関するお問い合わせ先】
日本イーライリリー株式会社　コーポレート・アフェアーズ本部　TEL：0120-925-500
吉岡（ヨシオカ）　Email：yoshioka_yumi@lilly.com

〈このプレスリリースは、重工業研究会、本町記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、道修町薬業記者クラブ、神戸経済記者クラブへ配付しております〉

1: 令和 5 年度老人保健事業推進費等補助金「認知症及び軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する研究」
2: 令和 6 年 12 月　認知症施策推進基本計画　https://www.mhlw.go.jp/content/001344090.pdf